

◎自由発表（第2会場）【座長・司会】岡田 敏之（関西地区研究会常任幹事）

【演 題 等】「今年度開校した学びの多様化学校の現状」

【講演・発表者】神戸市教育委員会事務局児童生徒課 指導主事 河野 悟

・発表概要

神戸市では令和5年度の小中高における不登校児童生徒数が4,500名を超え、その支援については重要な課題であると認識している。令和5年7月に「不登校支援の充実に向けた基本方針」を策定し、不登校支援相談センターの設立、オンラインによる相談場所の整備、メタバースを活用した居場所づくり、全小中学校での校内サポートルームの設置、市内の教育支援センターを8か所から9か所に増設するなど、様々な不登校支援策を展開してきた。加えて、新たに今年度「学びの多様化学校」を神戸市立湊翔楠中学校分校として開校した。現在は1年21名、2年9名、3年11名の計41名が在籍している。開校から1学期間の「生徒の様子、家庭との連携、並行して行われる次年度の生徒募集、体験学習、学習環境について」等の現状や結果についての実践報告とする。



・発表要旨

○開校まで

神戸市立湊翔楠中学校分校（通称「みらいポート」）は、令和7年4月に開校した。場所は、男女共同参画センター3階で元婦人大学だったところである。生徒数は、1年21名、2年9名、3年11名の計41名。職員数は教頭を含め常勤12名、非常勤13名の計25名。

建物は学校とは違う雰囲気、学校という場所に抵抗を示す不登校生にも通いやすい建物となっている。エントランスからエレベーターで3階まで上がり、3階では上靴に履き替える。多目的スペースは、朝のラジオ体操や実技教科の授業を行い、休み時間に使える卓球台やリラクセススペースが設置されている。みらいポートには図書室がないため、廊下の本棚が設置されている。各教室には9～11個の生徒机があり、机は一回り大きく、前方には衝立があるため生徒に安心感を与える工夫がなされている。

みらいポートの授業数は770時間（通常1015時間）。「創造」「からだ」「キャリアデザイン」といった特色ある授業や、生徒自身が興味・関心、進路の目標に合わせて学習内容を決定し個別学習を行う「みらいタイム」がある。時程は、9時20分に始まり14時25分に終わる。遠くからみらいポートに通う生徒もいるためゆつくりと始業する。部活動は行われていない。

○1学期の様子

生徒の様子は、これまで1人で過ごすことが多かった生徒たちが休み時間に誘い合っ、て、卓球やカードゲームをする姿が見られた。授業中には、自分の机に表面が青色、裏面が赤色のカードが置かれ、精神的に授業を受けることが難しいと生徒自身が判断した場合には、赤色カードを示し意思表示をすることで、退室しリラクセススペースで過ごすことができる。生徒の大半が、昨年度年間100日以上欠席数であったが、4月20名が欠席なしだったものの、5月には10人になった。特に1年生の長欠生が増えている。居住校区の中学校生活を経験していないことや、自宅からの距離の遠さ、昨年度受けていた支援、本人の意思等との相関を現在検証中である。月に1回程度、校外学習や体験活動を実施している。4月には相楽園、5月は王子公園、6月は学校法人神戸学園、7月は講師を招き着付け体験を実施した。校外学習の日は出席者数が増えるため、不登校傾向の生徒における

行事の重要性を実感している。夏休み中も生徒とのつながりを大切にし、「みらいDAY」と名付け、謎解きや、宝探しゲーム、映画鑑賞会、夏祭り等を実施した。リラックススペースの利用は次第に増えている。卓球台は2台設置しており休み時間の楽しみになっている。みらいポートにはグラウンドや体育館がないため、本校や神戸市の施設を利用している。

○次年度の生徒募集について

令和8年度入学に向けて、予定人数は小学6年生14名程度、対象校区は神戸市全域である。対象となる生徒の要件は次のとおり。

- ① 令和8年度年4月1日時点で神戸市内に住所を有する
- ② 令和6年度もしくは令和7年度において心理的要因により30日以上欠席、または不登校の傾向が見られる
- ③ 集団による学校生活を送ることを望んでいる
- ④ 親子相談及び体験入学へ参加している。

入学までの流れとして、7月7日に保護者説明会を実施。それを受けて親子相談の参加受付を行った。また7月22日～31日には親子相談①を行い、それを受けて体験入学の参加受付を行った。8月20日～22日は体験入学を行う予定。それを受けて親子相談②の参加受付を行う。

親子相談②が終了した時点で、希望者は入学申請書を提出する。11月頃に入学検討委員会を行い、入学児童について協議を行う。12月頃には入学者を決定。1～3月に「入学説明会」を行い、入学の手続きを行う。

・質疑応答の概要

Q1 尼崎市も令和8年度に学びの多様化学校を開校予定であるが、みらいポートは不登校支援施策においてセンター的機能を果たしているか。

A1 センター的機能は果たしていない。

Q2 各学年の「キャリアデザイン」はどのような内容か。

A2 1学期は、1年生はコミュニケーション活動、2年生はフィールドワーク、3年生は進路学習を中心に行った。

・記録者雑感

さまざまな不登校施策を打ち出し展開している。1年生の長欠生が増えているという話があった。2年生や3年生は、一度地元の中学校を経験していて不登校になった。経験の有無が欠席に関係しているとすれば、入学の時期を検証する必要性を感じた。5月入学や9月入学といった時期を遅らせるなど転入生の受け入れ拡充等が今後の検討事項である。